857
175

国立国会図書館　タイトル『無名抄』 請求記号 857-175

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

五節者　十一月中の丑日より下四日之間
内裏にて儀式を事
中宮抄云　丑日帳臺試　北常寧殿有儀式
寅日渋酉　御前試　於殿上有儀式
卯日童女御覧　於殿上有儀式
辰日節会　同上云　此辰日舞妓の三日之ゥ
是ヲ豊明節会と云
遍照天皇の御是時

857-175

云名抄目録下　此書八金京集撰者俊頼作セト

頼政卿　道さけ事
俊成卿　自讃歌事
俊恵秀歌事
隠岐者事
隆信定長一雙事
俊如仏世尊門弟人言ふ事
舎歌すぐしたる事
武部　赤染衛門事
俊恵定歌　神ノ事
俊名書事

清輔孫　女事
俊恵親俊成秀歌事
俊成清輔歌判皆有偏頗
道因歌　志深事
大輔小侍従一雙事
異歌　歌を入心事
寂蓮顕昭　法人事
近代古体事
取古歌事
法浪名事

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

わすりいさり火差別事
為仲みやぎ野萩をりて野辺
小野小町事
上巻ノ目録をはさまるる物なり
ふるといふくれくろ〳〵必劣る
業ゐて成失事
代く恋中秀句事
非奇仙ふを新しまる
範兼卿金使事
後鳥羽入道物語事

ありかつらをふく事　寛方奥列まて迄
頼実がすき事　今ゐて名ゐよむ
ここ初め事
伝秀句んをとりする事
梅沢こけふよむ事
詩人不平沈淪事
公あまる時白拍子よまる
近年金狐藤事

俊恵云
雅政卿道をはける事
雅政にはかりしふ仏んのそこま
で方ゐなりゐてつゐにこれをわすれぞいな
ゐけつゐ名のひとゐなき風のそとかくまで
きて範乃ちゐたのおちゐ月乃かゐ名ゐ名ゐどの
ゐるつけてゐ立ゐわたきゐは風情をめぐさた
と云ゐるゐ詠に秀句の出ゐるゐとりこそおか
ゐし仕ゐれば物へき時名をあげゐる方おゐく
ハ擬作まて名ゐとゐやゐ大ゐの金乃発ゐ仕ゐ
なりゐく云ゐち詠ゐきあきとりをせれ
ゐりきも方ゐく金ゐる事とみていう

[illegible]の人のあるなるべし行すもたしあるやうに侍

清輔孫光事

晴命云清輔卿云乃至孫光ハ所ふるぶん

引いまゝ[illegible]とゝ[illegible]とゝ[illegible]ゆるすとわざと

[illegible]ハ[illegible]ようさに

あるさしるゝとゝとゝ[illegible]ん侍[illegible]の[illegible]

ことハ大すハいうし古集をこゝてこれといひく

万葉集をこゝそくみ[illegible]侍

後成自讃歌事

後嵯云云条三位入乃のみりまるまで[illegible]ついでゝ

四位の中ハ位をとうすゞれうとおゞに人ハうて

まてやりくさゝして侍しどそれしをハもちい侍べう

らゞ[illegible]ちくうを[illegible]ん[illegible]ハ

夕ざれハ[illegible]乃松風ふうしみく

うづるくなりふるくさのさゝや

こゝをゝん[illegible]とうてのたゝて[illegible]思[illegible]る

といとゝ[illegible]と後嵯又いとく世にあるゝく人

乃ト侍ゝ

[illegible]げるを乃ゝ[illegible]をさきゞて

いとゝ[illegible]ゝのゝ

これをすゞれるやうト侍ハいでゝ[illegible]

[illegible]ハさりやけ[illegible]侍ハ[illegible]

為づらはさきの竜はいしくなべらもと
で待ちとかうてこしをうちくるよしは

後恵親後水秀方事

かの竜はあらてとりこうの今れいう
う元会て おが方こうこれ所になりぬる方は
きもきといいるうてくるべるにして
りんうとたもせるうしをふまてもいうま
付はいうくいかてゆきて方れ詮とまべ
きかをさいくといあるりれはもぢに
をあさくるりるこをを

後恵秀竜

其次て我方れ中はハ
みうれ山うきくうり方れを
あるとうはうちあれけ
これをるん かの角くしはきんとあるたす
るり世のを方りおおつるくいる人を
あるばかくこをいしりかうたまへを

後成清浦方判皆有偏頗事

顕昭云けしうの竜れ判ハ後水仁清脩朝に
元れた事に方をこに偏頗あり判方
はこうくれのやれりうるこ後水にを
れとひが事をすとあるりきまていと

あらぶす世の中れるしばさるくて来
いとはるやうはいとれ清情物語は和相
いうう清廉なるやうて偏屈なる事
はかりをきしきにあらはさずそのづる人のかた
ぐ事ふるしあれば事きをあやまりて
あらびろんぞれしらば人のうれのうを
いしてさるにいづる事もみうきし
陳作者事
おかうはい方を判ぜるは作者をかくまれて
いいるぐ日とうきはいしきなすこ
又名あられるとをぐかりくなりて

おろる事たかうかくきるやうてうちく
月いさういしあるがあでいきるり
道国奇は志深事
此道をんざしふるアし事は乃国人乃
びなれわり七年なるまて奇よ
ませまといのんあり かちりすこよ
しの月おうでしるいとありづき事せ
ある方合は清情物語は判ぜまて道国が方を
まりありればわざと判ぜ乃ぞ不まう
でおやうまるみをとをぐりてなれうこ
れは亭といんうくるぐうれれる事ま

これあそばされつれそかつ
なりくみゝをおろかなるや今乃
時ハとさゝ講師の花乃きゝにわけ侍るとく
きゝもしけとそいあてうとさせをぐに
みゝをかゝけつゝ他事なくきゝ侍りしき
などゐ物ざの事とハ八九てざりき千ざいゝ
えゝ以れ侍事ハかの八九うせく乃ちのす
なりさまどゐきあとまゝきをみちよんさ
しふてアし物とて侍て十八首をいま
らしらるゆあの中ゝきゝうくなゝぶ
をゐゝつゝろこびをしを八侍うゝれ

をにあをれゐていは二首をくをつく七そゝ
なさ秋ゝりゝるゝそ考ゐ侍るすゝそ

陸信定長一雙事

ちゝごろハ陸信定長とけゝびてわゝくゝりゝの
ちちはゐゐ物やゝりゝいをれ侍きゝの後ゐがいゐ
て百首を十そけゝ十首乃百
そゝ名つをゝるゝものあゝりゝ侍るハゐどみくを
のくいをはゝくゝりゝ侍るに侍ゝ侍ゝたゝゝざ
ゐゝりゝ又後加の十首ゝ事を侍ゝゝこも
るゝくゝんゝりゝれハゝの仁ゝに人のゝとつゝゐ
りゝきけど仁事ハあゝんとおゝひてきぎ

はるにこの月そのかるこうし西物しつびけべ
くおかうれとるんいそれりるうちあるを九条
殿右大臣と申時人々くるる百首を学ばるる
隆信作者へ云事ありうちるはずもか
くて物さはがしうきれバいとよろしき事と
おうりるそれのうち定ハ知家乃ちなて分
乃いとまもあいはをこしのどやうあんじて
そもじの百首をみがきたてこうしてうを
はるたとへしるくまさうるれそのときう
宋朝(しゅくちょう)れ太郎といつるまきはは恋
ちいうるおこのかれおかじはるの月ちと

はがいれあるぞとまでおろせられるとを
乃ちるハ隆信うき事ってをやくしか
ちうばさる道の方伝まてやしるまちう
るきいのちの月なくてかくみちのたちをあ
ぶし事とでいそ道(そう)りる
本浦小伯道(おうそう)一双事
ちうくせうるこの上まるてハ本浦小伯道と
てうりくまいそし伯きい事ハ波をう
物るどちうく祐づよくよるむるハまさり伯
俊ハちるやうるれおどろくあるする事の
きそれうし中まる方れるへしきる事を

ふしもぞれうとぞ申ふいつる事乃
中まさしもありぬべき所をとよく見つめて（こゝ）を
つゝそいぞせのありがこきしもなりきぞ侯
法師ハ仕

侯かに世高門に為人方のおとやうなるす
いきの心ハ侯かに世とさこゝろ人高門と
ちうの世度こそむ一すもたぢぬ上手ど
をろ言れよこやうこそこのおろうきをて
仕けは人の如ふ侯かに世ハたれの方
よきんとてハまの日ごろをてわろくれ集
ともをくうつしよくんく加もあたらぬ

おりぬまはみるとりをきて火かをうて
り人どゆくをとるくしてちんぎれる
高門ハたゞあらたうまてさしまれ
わとうこみくきうごうぶいて火ちうくこも
しつかづくうきつをくよるもたこう
ぞうんあんーするこの人ハあるう方をあく
あんじてやまいまりて一すびハたにをづれし
うきちの禅門ろに来しも勇れあるう乃
来まてうあまかくしを乃まハ加
までハいうにあんじ侯ぞいさあるまれども
ちいぞはあるいのちしてやこうぶれのに

かりそやありけん、寐覚の道ハことにこの事
をいうでかりく
異類異形をふる入心事
とうとの異類小将兼信の方に心をいたぬをう
ゑくゝ侍るにゆゑ為をそなる人ゐしバ
あるゝん家の井戸をもしくぶちりてゝ見だ
もしの乃舎ゐどのゝうしゆゝきよひきめをそこう
こみくさいくさ(ゝす(ゝ方とも事とゝ
とてゝちゆき書るゞいいい侍
舎衛すぐ(ゝ
ゆゑあるあさゆゆ侍ゝうけるゝにぞめづ

しきれをありき六首乃方に みゐをぐさをよ
ゝうゝくまゝとて去方ハふくおろきう秋
そハろそくかゝび忘流ハ方えんよやさくけう
奴ゝ(ゝ)こしりそゝやうるようおろせバれのよ
しとありのまるゝあげよ方乃さ侍しまる
ゐゞ(ゝ)ゝ筑ゝ(ゝ)たゐろゝと祐仰ゝうしうば
いうき大事ゝて(ゝ)ゝ(ハぎゝいをんまくゝう
奴ゐゞの人をハ又ゝとりめされゞ加ゝ(ゝ)ハおさ
しくれの社にすいけて侍ゝ(ゝ)ゐまる人殿下大
信正ゝ房定宗東塗寐覚(ゝ)弔とわづゝ
六人ゞ侍ゝ為詠ゝ奴ゝくおろきゐ寄に

雲さえあれ　春風ふるあり
多くは乃山にむざうをを
うちそぎいきいきとなんなれ寺
和歌月秋さうふけゆく
わたくかびしる方
五月乃されは月のうつろうすみぢ
てるとをきをつ秋のろ
さ引さハるかのこうを　法寺
おちぶうこ
えんはやさしき方　けさハを川音
あのぢよりかれ人

あのかれ神のくちをてぬまに
多びこうしろあつまのわれり
ちかりてやこやぎれく高
寒蓮　題昭修理変題季子ト云
この中は春の方とあはれ寒蓮入道
ゆこせし時こ乃さくの方をこくて
あをれうしかきてあてきをでま
かりぞそ時ゆうくこれをきけば谷
乃方はおろく寒さはれ花をよもれ
秋辛にまこばちぐてんをそ空ぐあり
のまはさとたまも　きるいとありぐきんり

しれて、ぬるハまことれ心ざ度をとゞいく弥
妙なる人をもいとしざりと我えるみちよるれだ
ゆゑ（とくるるゆりれめうこと宣陽門院の御供
花の会乃方にこそ笑いさとゝ以前て
うごきるれよのやまとるでことよりーを
ある先達乃人く我方よにたりよこうとある
ぐちゝ待ゝぶちゝれくて高雅にようこうく
まゑをとへるきんへうもしく人のほをわんとす
れ祇て我ゑの西月あるーしこの事をな
ぐくとうきたて待るかうくさるどあこ
乃得分て自讃かこまぜてもいそ待ん

式部 赤染衛門事

式人云後拾の題目定家中納云 万代大納云
よ式アとあるれのとゞたとりまさりとこをは大納
云云ちきぶこやしもし人をいべきとある物
なりひちくちりしべうたと待ち八中納云か
まくいとくまアが方のハをほるてを山去
その月とゝ方をとよの人八秀方やア
待ちとゝ大納云ゝたゞよの人乃ちぬ
事をいとくちきりて紀ゝ八経去
文多しばゝまをよ八寸出の今八ちとりう
云ちとくやちくちしねべしきやとと人をゝ

べきもいひくゝもすまこゝろ
といつるこゝろ　ゑんまのをとゝ
あり　神とこゝろ　神なるゝ
ものゝ　ゝんあり　一ゝハ　神
りゝれゝれどゝ　ゝのゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
二首の　ゝ　ゝ　ゝ
ゝハ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ

ゑハ法しの奇よしまハあ〳〵ばくちゝまう物
う事ゝ〳〵しかるゝにおりしき一ゝめとまをと
よこれ〳〵ゐりされど人のようこうん所ゐん〳〵
とりうこうんいでやさまでハ心しゝでにに方
れよりまるゝゐりをづうしれ奇よこやとハおが
えに丹波ゝ松方をバ文とゝのゐりそゐりを
まさひゝ歩つとゝいゐゐるこにやんどゐき
ゐゐゐゐ祢どまこにゝ〳〵しうで奇よん
とてよゐづの事ゝつをてよこちゝさゝひどき
こしゐるかぎりバえゐゐ記れりゐの事を
れれこれをづうきくちつきに侍ゝとゐり

かゝ迷バれの時ハ人ざゐまりてゝれくうゝの
うこと物ゝまたりゐちひれひど侍ゝとまハ
上手ゐしバ秀奇しおゐく〳〵こにふゝ侍く
ひまゐく〳〵よこをくゐとに撰集どをゐ言
あまゝ〳〵ゐるこゝを曾祢好忠と云ゝの人
物ゝもあるゝを円融院乃子日のゝ幸ゝ推
氣をさへしてたこの名をあげゝる物ぞゝ
されどいまハ言れゝまハやんどゐ記りのゝ物
侍り一事院のゝ時みちゝくさうゝ物ゝ事を
江帥ゝ考ゝ中ゝ言よこまハ道伝実方
長能補親卿ゝ門ゝ祢好忠ゝこの七人を

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

をしれハ者さしたく侍れこれを人ゝ
ハとく いりる世ハ世のおろかしもおろかなる
べし さてゝの事ゝ奇よりとりてれおろかハ
きりハ元位ハ乃至りのいとれぬるもあるべ
今れ元寂の元ゝ事なるまもなりかたこれを
よくハして思いとくべき事ハ元ゝ
ゝ風情たくさんハ比しれどその元れ
をさしもとき さしをなき事もあり又
物いりゝ元ハをよびゝくしをあゝ紙ゝう
ちきくたきあゝえんまおろかしてき
きうゝ元と侍そゝさしハ徒ハ奇よしの

ゝとおさくさゝちんまハきやとも人をと
ゝ元をとるとと事ゝ秀奇ハいづれとも
えゝちんまハを侍ゝてゝせと元方のおさ
ハべきにてきとへハたのゝゝゝあばゝり
ゝをつけゝゝとこゝるハたゝなるべいと
しくたくさまにゝてゝ多れどゝえ
などのさゝいハさゝゝたゝゝとまゝゝた
らばゝハをせをいちんまハこゝるかとたん
さゝまゝのゝ多まあゝぎゝりのたゝいさ
ゝにあゝ紙ゝこしとゝの上まれをとさゝむべき
ゝとくせゝゝ元ゝ迷ハ大細元れのいを今天さゝ

はべりるまや、りハみ方乃ぜんあくと世に
うちるわるしばう乃世ろこやとも人とと以ふ
方乃まさるかとしもありるとるべく人めんしざ
アりるまや乃ちの人さどもへし

近代古祈

ある人問云けごろの人乃方のさま三面てわら
ひてう中ごろ乃人れ方の神を祈る人を
と乃世の方をバきでろ乃中方やうまおりして
や、遠ア宗などいふ乃ハ方をけいてうを
あざける又このごろやうとこのむ人ハ中ごろの
神をバ信ずるちし乃ハ方ハなりときゝ及ぶ、

宗論のごとくしてときうべくもあらばま
学乃ろ乃ろ也心をかどとはぬへ、いでんうへ
きといふある人答云これハこ乃ろの方ハ乃お
ろきなるあるをしるれたやとくいでさぶん
多でし人乃ろいり月引の沙汰をしさとう
たる神のこをもとれるれるれたがつう
ろくとも人乃をよぶろとと侍ん又ろるを
ひんてきごいてとうほへしおろうは
事を人の非人のごくわつるがふしばおがし
侍ろすべくうれさ多ようにとろりむう
多字乃うずさきちろとそよき多さくちろ

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

まうせくいひりかのいづしやへぐきのうきよ
てれハ云ゆみをりにさきすりよりしど五葉
のこりのみどまでハみゆ秋ゆんごろなるんさを
のゆるたりまくあゆちてすぐををふを
えてハざりをるやとみしり中ころ古との
ごき花實ごたにそかりてきを後まちくよ
をしりる後撰ゆいよりしき言古今よこう
にくさしてのちいくりごしへざりれハ言えぐ
りてすぐをハえてハぐいをさきとせり拾
ぐのこりれの神ことのかりあちくな
アてをりくまゆくあり道をぐすふり

なるをよりとにれのちに後拾のとき今
をこうやりぎてむりのれををすれりやさ
れのはりるきくるでハこれをうをさりん
るや後拾をぐと名づをてくちあまま
をにきはとをある光をかりゆし
金葉ハえわざをたりかんとて拾く
なる言ゆりるを詞花千載大略後拾の
れるべ言れむりりをりをりをや
かくのごとかをハ拾遺りのちれりを
りりていをくなりるゆて風情
やくつき詞をにりてこのをはをぐい

てたとろへゆくむらハで花を惜りまぎへ
月を恨にませもみぢをまきに思ひするたぐ
いをたらきことにとしどけ今ハそのハいひつく
して雲乃中まさ陸くの雲をかとあこりり
まうてめづらしきんをたへすきてと
なるうとをうづねうやらこやとうとたるこ
くおもいうれハめづらしきけ情しかくなりゆ
くまれくえうれどもこ昔を思つるさとろ
ごしなれだいやくくぶけるなりいん
やうとたいうてハいつうて京しハあつて
しきとたをうくあとを学うしまとを

なり秀逸ろうハ文七みをとむで七この句ハ
ろうをとうをうやうりさに当乃
人方のさ陸乃世にようこるされるすを
きりてさうよ古れまかうく幽玄体を陸
ろぶこのいできうこうこれまりて中古乃ろが
逸とろうふこりぐあをたどろうてうを
わざきるきうあれとちうとまハさうハ月とつろ
逸ハ上手と秀方とハいづうまれそむうどい
をいう信俗粧設信恵登莨ろどうろみうち
をハいまの世の人をてうくくそいちやうをが
たの方れ中ろうくちくうるとハ謗家こて

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

そは世事の、あを、ちかどにいりてハ、みいだ
さしとゝのかに中ごろのさしもゝ見れ奇を、
今のよのうにゝ、べてこれハけさうしゝる人
乃中さ、あまがゝるくちぶりゝ、
いまのよれいと云よしおろせ、あるいを
べくいしぶ、あるハまくい宣を、ぶ、ぶ、さ、を一
方ゝ偏執をすぶきゝ世ゝ、同云いゝの
よの神をあゝしくいでゝきゝるやゝ松つ
ハひぶ世ゝて侍ゝ、苔云、こあるゝんいを、を、
世ゝ、ゝ云あゝしくいでゝきゝゝとゝて、
ゝ、ぶゝとゝあゝゝべゝ、ゝこゝゝを

ゝぎゝあるゝ神だゝ、ゝにあゝゝゝるせ、
このゝれ小国ゝて人のいだせのをゝゝなゝに
ゝゝくゝゝくの世をゝ、ゝたゝへゝとする
ゝて、ゝ侍れゝて、ゝハ、ゝをのへゝみゝをよ
ゝこゝりゝんたゝゝれハ、ゝの人乃ゝてゝゝびこの
ゝんゝすぎゝる世やハ侍べきいゝにいゝんや、
さゝにくいゝ侍ゝくゝいでゝゝ多世ゝハゝゝて乃
世ゝでハ世ゝと侍ゝ、古今乃奇ごゝをよくゝと
ゝゝゝゝ人のこゝゝんゝをバゝる、かの集乃中
ゝさゝくゝ乃神ゝゝゝあれバ中古の奇乃
ゝぎゝゝ、ゝゝゝいでゝゝゝこの逃げ云のさゝ

この集よりいでゝ、たとへいかのせゞをよ
みつらく、又あらたまる世ありしかさと
ゝ、ゆゑ、ことゝさすえゝいのせゝしばゝを
の集をば出べゝしこゝと一命をみゝどゝを
かいくゝゝといやもるハえゝとへる中古のさ
ちに射をゝ抜るゝ、ゝ問云この、ゝゝの祈
いづれゝよゝやゝく又秀句をえつへき歌云
中古のゝの祈ハまゝじゝくしてゝゝゝ秀
句ハかゝゝゝ詞ゝくゝ情むゝを詮
とゝべきゝゝとの祈ゝゝくゝくゝくん
をつればゝゝやゝゝゝのゝきゝ

ゝてすゝゝゝゝにわゝゝて眞あゝ色き
ゝへゝ問云きくゝくゝゝゝゝゝゝゝ
ハゝくゝゝきハわゝかゝゝゝ学者ハゝゝを
くゝゝゝゝいゝゝしゝの縁端をさゝむ
べき歌云晴質を定べき事ハ辛ゝいづゝ
ゝゝくゝゝゝゝゝくゝゝゝゝゝゝ
多ゝし寒蓮入ゝ卜事ハ付きこゝのゝゝ
やゝくゝとゝゝべきゝゝゝゝのゝへハ辛をか
らゝとゝたゝゝの人ゝゝゝハゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
事かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

やうよりあとにいたんよ者は眼法師などいくらあんぜとしえてそよ法ざらも我をかめ
人と乃ちむやうあは多でふでさうはすして
いやちくかきてんさてこそとはさうめとぜ
ト者れし人のそそちてんぜ分よりてハ中
ぜろの人々あちこさしあつずりて侍舎に
侍なりく人の寄ごかをきてしてを我
おのいくとぬ眼ハいとをくふうき我でき
ちつるようハこれハようりうぜおがゆるす
こそありしうといさてうとをいのめぜぬをハあり
ぜくるん侍しちうあるを沙而乃ぜ舎うた

うちあうしまハふつとおりひうぬ者をの
こ人どにちあしうぶこのこちハをやそこを
ふくきハなき者ヨるにうとおそろう
くこれおうし侍ぜこれハいうまもこの秋を
ふる者ハ骨法ある人のさひう入多ぜを
こしてのちあるべき者こそれをるぶしそ
つをバさてふくき者たかういちんや眼た
ら人のいまぶうまでてのりたうぶしく
をしそうまふびしうるうハてき者
ありけさうとばをへき者とちくあやしう乃
ちづのめなどうんにおうせくあどぬりつを

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

たんやうれおぶしは待ゝやうの為ぶしは我と
はえつりてぞ人乃よしすてるとぞごまを
ひろえてうのさまばかりまぶたりまりいたゆる
ゑさいく風あけくんのおくあをれのうこ月の
あり的風れ又ふし去れあるさとるどはたゞ先あ
づゝくよりある時こそあれふてぞともみしは
念しみき半くせどもをとつゝ手ねぶ
ゝあるハまゝおがつゝなくいこゝとてよまん
とする祖にたてハ分づゝしえんしをたゞねば
元人亦着りりぬゝやうの使れ奇ハ紙
玄乃さうはあるにきに達ゝこしをハ

いるべき問云さとのおもむきハたゝくいし待り
ゝうゝれの紙玄とうしあんれはいりてこを
いゝるべゝとをいしかくゝ待迷れのやうを
うを法りゝ人とりは首云すべく云乃すぐハ
んしまくき半ゝこれあるきに偽ずいるゝ
どゝしかゝきをハ主半をゝりてを收だゝ
里に天ゝふたどすゝるゝりてハ分ゝた
天しゝるゝとゝゝいたんや紙玄の祇まゞ名を
きくゝしまずしぬへゝ分づゝいとんしぬす
るしハさゝにいるゝトへゝしをおゝし待ゝ孫ぐ
よくさうはいるゝ人ゝの卜さゝゝ部むき

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

心詮ハ一ぢとだにあらハ道ね餘情をぞ下
みしねりきなるへし心もとり者らく
と紫ふも絶きハ者りねしこ道て此徳を
をのづゝそふをるとてたゝ秋乃夕ぐれ
乃哀れりきハ美をふく下ゑもろいづくゝ
いふる少へるべしとを抑し祢ど也ぞろに
なみしこゞるてゞゝ志ゝとんふきけゝの
をのハさゝよいゝとと思をす多でめゝこ抑る
をふもみぢをぞめでは又よき世乃うゝめり
き半あれどゝとだるもあゝハさぎふゝくを
のびいる京美ゞをゝめくゝつをゝるを河

をはらてうゝ神ををりてゝせんりゝと
んゞゝうあをしふゝはべきゞゝし又たさ
なきい物ゞゝはこまくゝいをすゝりゝるま
いゝでゝきゝとんくゝをゝむすゝをちこ乃
ふ乃のゝとへまて此はきくゝいあさゝん
人乃さゝりかきゝとゝばをりねへしきおさ
なきふのらゝ多きゞかゞゝしてゝこゝもき
こしね半いいゝるハゝゝる此て此をても
いゝとをくゝきて布あるにる半と抑ゝや
これゝとハいゝでゝゝふゝ也くきびもしさゞゝ
よいいもあゝハさん きまでゝゝゝん(きす)

みきりのくまより松のこずえをながむれば
雨はれのゆふべしぐるゝおくいらさ
りてたりろうんかぎりもなくをてら
らはゝ世もをどろかどくさぐらにもむすもも
ゝしるべしすべくはかざしとだにわすれく
月をくまりとゝ花ばゝ(ろりとろんと
はるにはかさうんづくうふ言れてはをいに
まさる法ときん一をだに世わくのをいをを
こゆるはさしてふうきいざしをはくゝね
世の事をかもげはうう(いやきをかをして
後をあるりをろうるやうまて多(なるをと

はるばきたもはしれしをよだにとだも
をゝ以時これまてかはいをのべるつる三十一
字がうちまあつちをうごうすはをゝたる
神をあさむる術まてはは(ぎつ
後恵定言(さだもの)神事
後恵がゝよのつゝのよきこゝろかりんの
をりあゝごゝよくえんすゝれぬる言ハ
うきりんのをりわみどをるゝがくくうに
京(けい)氣のうう(はるり
おのくとあうれうのわざうり
ゝまかれゆくあるををを世

月やあらぬ春やむかしの春なれど
我身ひとつはもとの身にして

こゝろ[illegible]情うちすてゝ
ものうらゝかに侍るべし

とぞよくはぢ[illegible]つれなきものづくすぐるす
かざゝ[illegible]このはをぐるまゝにあるべし

木工頭の章

うつゝ[illegible]入にうたまぜて
たゞなみなるれの多れ
こゝもとがはねうきもんを侍へしでしき
詞をでをしれどわざとたゞめるやうなる

ゆるゝ又先とはへしあるのうゝ

月さゆるこゝろのうちはあれども
いとゞうる多さ仁のさわし

これはさとへぶりとうるんれよきゑをえどし
てちいさきゑどもをうりあつめて先ぐくさ
しあをせて多てられどいつ月もおこれおか
きかるゑはたとはるやうまわざとそるゞ失
るて侍へ庭房章

ちゝくとゝ乃ちるはるみらの
らゝ乃ゝ山れを乃ん分ざうゝと
これうよき方の本とハ地ゞし侍へ秀句と

みくらざりることだもあけど すぐいうりを
きちげまいぐして角けさうくとをしろき
みりさと(ぐ)しろき姿のことなるようしあけま
どかろく乃姿すぐれるることしろげ乃
半きハすりてうこきハありてさすがきこ
この紙ハやはれやうみてきハくくうしひと
すをしぐびみばあやのこうれるりぬへ
いうまもさひまいくもして ちこいてぐきさ
なるとまい

ハあるむ人をこせぐやはめ乃
みにもりりのたるれ家きを

これハたぐあの方れやうまかぎうみくくをしろく
みとハあるあ初どいうりふをやうなり角と(を)
紙(のう)ぎ乃うけるみのかぐみどのことしさせるてん
をくを(筆)をる(へる)而をとみけまどだやを
るをとぎくみるて しうとう(みるみり)又云
ちがひまいかどをめぐバ角乃抜き
けうぜさむこちとうなくみと
こ乃方ぞうたりげある小さぐびハなり 六月の
廿六日寛算ぶ日もこれをぐた詠ぐれハさむ
くなるとぐある人ハ(ハ)仏待 おかういうなる
ん討みしどわざとあるやうまみるハ方を

うて矢とすべしとでむとせばねらふの木ぜを
とめぬ野べの草むらに芝はなつて花の名し
をあらはしがほにものづくしをつくりつるさまを
やまとうたいつるやうるがに秀句ふるく
侍り三十ばいが実の神といふことなりき
風情をたのしえぬとき心の色くるしてつり
よつべきやうをあらぬ一まはさせるをなを
迷ひ色をつくしてきるかひしふくいしふば
つまいはらしくきるか
風のをとに秋乃秋ふかく初ざあして
月をてぬゆめれ名ごりをそ思ふ

一まハ古今乃ことをれらうふさを引くたう
しくいしふがせるみたしの秋ぜを
わがをこゆるしまいらしの秋ぜを
ゆざのうぐをよきてふるん
かり人のあさふを習べのくさわう
くろひるくきすふくし
みこさよふぬことをたりろくでをみせる
わさどを秀句とかる
をりはるる志うまるれもるあふぐちみ
人をこしとゆしふころ多
たかいぐさ紫ぜ色むもぶを家れ

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

くまくさていはゆるまもなくまだ
一まハ秀句ゐ紙ごとでとだつひ物をろく
はぐをつまゞ又ハ有ありて
あきて有をあつまをとめのうやむろ
ちきしのびてもをぐにてろゐ
あのおのちつをを物しのうむをい
んやをくをうちとくはゐ邪
いまゝやあまのこわるる月乃ゐ
ゐもゐをちまうにれをゐ
一まハ名所をうるに有実あり〻なくの言枕
下うずもちゝび物かれどそれの言れをうゐ

ちゝびくゝよむべき所のある也名とつぎ山ゐ
をはくはゐて松をうゐべき所ゐハいををうて池
をゐり花をさうしべき地りハ心をつき肥をを
ゐをがうくゝれの所の名まうて言れをぐを
うざるへしこれいうきに侍り言乃
すぐしと名所をがけあをずゐ也ハ来し
びしるやうをていうきに情あれどやゞしく
きこ書ゝ
よそにのゝ人てやゝゐんゐつきや
多すの乃山の暑れしをを
こりまるみやぎが原乃きゝ寄ゐ

をかもり衣かたくまでなき
あづさゆみをあさうちたれかりや
まのくにきたしかすこわりまろ
夕ざれば四へ乃枕れ為すみく
うづゝるくれりふくされさと
たづめの方ハすぐるきよげまとをしろれを
多うさ乃心とにるひてきこやこり乃奇
こと紫はるハやさしびれ三やぎがうすれた
かいとりあづさちの奇わりるくれりと和
ある神るしハかりうまれたきたしさと
ときこも枕風のうしいのさびきたぐる

ほるとりふうくさのさとことるあるを
はらてかくべうそこれをまてんしつへし

取古奇

一ゑハ古奇をとる事一ゑやりあり書き奇乃
中ゑ一おうき河乃奇ゑ多ちいれくかざ
アとりぬへきをとりてわるくはぐくへま
なり多とへい

衣う枕うこ一どしゝ後いきよりう

きるしく切うしきうハれ水
これゝ神るりきうあるをを古奇をぬきもをひ
とう乃れ実とだうりてよきあき河

をとゝはんにみぐりよりてあやぎて
はぎをるくちおしき事こいうもあり
すこるべしなのうらいとわろしなど
はかるまうてさとなる秀句をばうへへば
みにとなくくろくろるゆのはくくとうみし
はべきをゝたゝるぬるあるりある人うる
きゝまぬ事ゞやうりるとしるをうう
て月乃うる水るきてまぬこりりりとと
ゝりしとはこしゞまおとのぬとみよさるりと
なるみすみ分れさぬまとみくこれゞみ
しくきるやうるうるうる人おゞゆりとゞ人

ト待て又明石おもい出合あり月乃ちりを
よこ待て月

いまこんとはまや岩なゞ月の
ありはの月をしう形くるあ
この事ハとゞくやさしとてかちよきさまゞ
定家卿に南北るくゝ紙ぎれさかの事はゞ
云て月乃名二句こまとかりて待まうやう
まおくにるうしいれの句をいきつく上の
句とうにりみゝはけりあるゝみるるて
りけまこれハゝてものをき和まくむの乃
句ともそゞ句ゞりかをりるハ紙とすべし

とゐ人侍し

假名書事

古人云かゐにものゝ書はゝ方乃序はゝ春のゝ乃序と春と日記はゝ物ゝ流ゐゝ也撰物語はゝ作物語ハ語ゝすぎゐ故和方れとゝ仮名の音乃とゝ仮名ゝ也ゝ

ゐるものゝ一ゝ也ゝ

いづれとゝかゝつくまゐのことゝをかゝじゝやゝ

ゐるゐゝ心乃をゝかゝざゐゝはゝゐるゝやゝゝゝ

ゐきくちゐゝなゝ乃和とゝはゝゐるゝてかゝゝゝれゝ

ゐゐてゐるゐゝ乃字入乃多書ゝ字乃ゐきにく

きゐゐをゝみゝかゝきてゝかゝくゝ也方葉ゐゝはゝ新

乃をゝばゝゐゝと加ゐゝ春乃序ゐゝはゝ春撰をゝば

きゝせゝかゝくゝこゝゝゝみゝかゝゝれゝの説なゐゐゝ乃ことゝの

かゝざゐゝをゝりゝあゝて對とゝこゝ乃ゝかゝくゝ乃ゝゝ

ゝゝゐゐゐゐゐゝ乃和ゝゐゐゐをゝかゝくゝ對をゝゝ

くゐゐきゝゝゝゝゝ真名ゐゐゝて假名乃ゐゐゝゝ

あゐゝゝこゝゝはゐゐき時の書ゝゝ乃春れ序ゐ

乃ゐゐゐく當水ゐゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

えゝゐゝゝ和ゝゐゐゐをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

沐浴するなどしてやうなる事をあるいは始るきをとりあるいはめでしくゑくゑゐるやうにうすべし時分云ゐにりのくに事は清潔いとうきよ上手に中まも初夜の新法の日記いとおくくゐもう花のもとに乃きまゝときこうかき乃もに柿の実乃新をうをしうとあるうとなもとに乃やうゐのゐいかやうまかくべきゐう

法浪者

なこの名はあまりあり花緒入道がいしりると七人乃ゐうしはをゐこさゐゐこ侍らなんゐ

うれてうつ七夜なるしとしみゐなこ乃名とといひれどいうゐをしうまきていはぎまりうこゝはそのくゐそれの所ゐうくゐをとて侍ゐやゐゐどゐはいもこをとび侍を題目ゐ乃侍うばさゐこさでなこさで所なこいふをあうこしみゐちいさきゐこ乃名こをの底略ゐはけるもうぐしてもちゐうべしとゐと侍をはゐのもはゐこゐあるかゐゐの事のつゐでまかう侍はつゐこうして南乃ゐう大隅薩摩の乃どいに道のくゐとゐやまゐこうゐ乃さなうみなを

侍れこは四月ハあけ花(ハナ)ちてちづ
まりまして四月ハうをばうるみとい
五月ハ多つをばさみとゐ
月さ月といひ四月やいとひきう
ある事
あさういまれ別(ベツ)
ある人云あさりといふハ同事せ
こはいかにてあさりとゐ
づけ四つべきをばいさりといふこし東(アヅマ)乃
あすの口ハ人云まことにある事
五月かけをふく事
ある人云猶為仲(ためなか)ちれくるものかなてぐ

当時五月ハ五月ハいへどもこかをふきれしを
あやしくてこれをとゐそのの時藤原(ふじわら)官云こ乃
むるはむりとゐさう(宮庫)ふく事とい
ことをとゐ花中将のみつち乃ほ
ときにあやふくあのをとづくふをと
侍りしこの人ハやう侍るきをと
侍りそのの時けにあさうれぬ乃ふぐつ
こやいはあるをそれをあけと侍りかく
ふきそあて侍りとぐいる中将乃みき
ちとあまるのあるんと
為仲みやきれいをぐりてのる事

この名あなる仕たてのぶりにぶこきみやぎ
はてをきをりく七挺十二合を入くもち
のぶりをしバ人あまのくきて京へいりるバ
二条大路をこしを乃りの方へ物くあつ
まりくらるはるどもあまてきて多りりそ

頼賣すき申と

たをつ附くを人形賣バいうきをもわし
如奇なるいざしふくして五年ぶいのちを
多てをつ人奇をせまつをきみは
ないりりをりれの後年をへくたりきや
まいをうをうをるときをいくべきいのり

ごしりるとき京にありる世まうの
四神つきはくかくいのをりし申をバ
わをし多るう

本紫ちはるどハさてわく申ぞるき
しぐしするよし世雨をぬよし
こいつる奇奇ををせハるをぢがをんをく
してをしをいざりしゆりれぞこ乃
しびいうまいくまぎをを結仰りるを

小型小町事
ある人いをくなりをを乃物を二条のきを
乃いまぐを人をたりまりるはぬを乃

うくゆきりをせうとてこちらへこうしさし
ゑうしいうこの事ゑ日本記乃式
ありとのさ段いかのわざうゑいゑるごく
なるにうくうぎいうしきるはきうとき
ちれのいきどとうやまめくてゑりひ
のあうんゑりもゑとをきうくぐうちあし
どゑみぐたあ事ようゑぬ事るれば人きを
んゑとれ日乃ゑ思くすぎるゑゑりゑ
れあうんかみかさうんとてさりわうりる
ゑどゑ方松どとゑんとくすたことよ
せくあつまるゑへゆきうみちがくく

あてやもとまいあこころまて風うう
りる夜師の中日寺の上乃白を祖ばる
ゑありれの河にいえく

秋ぐれふくゑはたてあるく

さりあやくわびしてゑをうつはく
こしとともゑるさにん到て死人を
かりりとつありあゑ多なばこれをゑる
のごゑ乃れのかりはれあるうすき
ゑんひとをおいてゑりるれのをれを
うぜにみじくをのかくきこればあやく
おびしてあゑ乃ん乃ゑこの事をこある

人々うくいたく小野小町このうたをぞ
この所にていのちおりうりをもち
れかりこしろりとしさてなりひらあを
ぢにうくたりしなどなみだをさく
下乃白をたきて

とのといたぞすきとおいうり
ぞつきはその形ばかりまつられをのや
いいりとで行る多まはたりの乃こまちや
小野小町と都人うちあるぬわと人く
ばかつるみき事ようてあるいは行とき
人のかりう行

やこ孫の事

ある人云ある方合天月而乃前をこやの
こ孫ようきぬべきうるとよりしうあるを
信情弱に判ぬるまてやこうとう事きて
ようずとてまけ多りこのみちの乃をせる
ごもこの事心たりうんせ引ば撰ま
多けちうくとこ孫ハをば号乃
なくあまけいあさ井をしを
こよりこの前ばかしざばすやと云この
紙をかりばはしるすべくわ前れ神を
心しざるなりその少へ方乃なるい世

をぐしくかちひるをぐしあり賞(しやう)するこ
とだあり古しへの古集の方としてみるべき
多しとあつぐ歌ゝにさしたる古集を引
もるゝもあるゝ時の風乃ことなるゆへなり
古今あるゝ時ハ古集乃中ゝ多くのをぐしを
も一偏(へん)ゝ賞のせれ風乃
多つるを見そなゝしてかゝ乃
神とゝいふ人ハ集をぬきもべきゝ
かの撰(せん)のうゝこれゝ乃ゝ撰集(しう)するべく
もあゝゝ賞せざるハ奇乃事
きなる失なり物乃きの秀逸(しう)あるざるハ

こゝをゆるさず次にものこゝろをやゝ
あさ井せゝしゝとゝいつるすゝをもゝ
ゝすゝ古今あるゝをゝこゝ神といつるさゝかる
きゝをゝをゝゝるゝ世乃字を略(りやく)して
やこゝとゝいつるまゝをゝゝやゝなるをゝ
こゝをゝ撰の感をかゝしく
ゝこゝみちゝくきゝ乃人を智(ち)乃

鴨長明抄(ちう)

元亨(わう元)二年五月十八日於久我殿

857
175

国立国会図書館　タイトル『無名抄』 請求記号 857-175

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『無名抄』 請求記号 857-175

ガラス使用